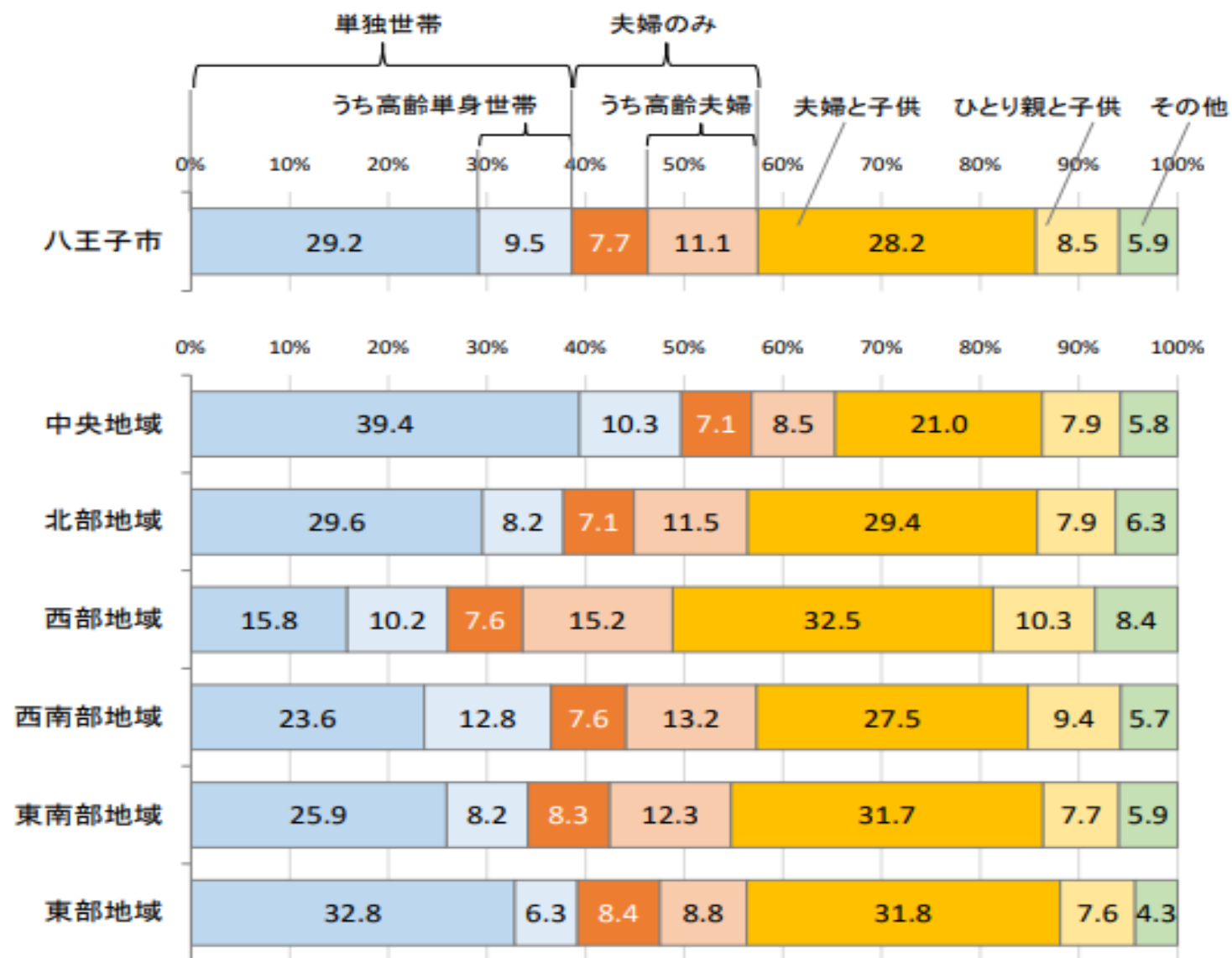


令和5年(2023年)11月10日
八王子市社会福祉審議会
高齢者福祉専門分科会
高齢者福祉課

東部圏域8050問題地域ケア会議

地域包括支援センター 南大沢・由木東・堀之内

■地域別 世帯の家族類型の割合

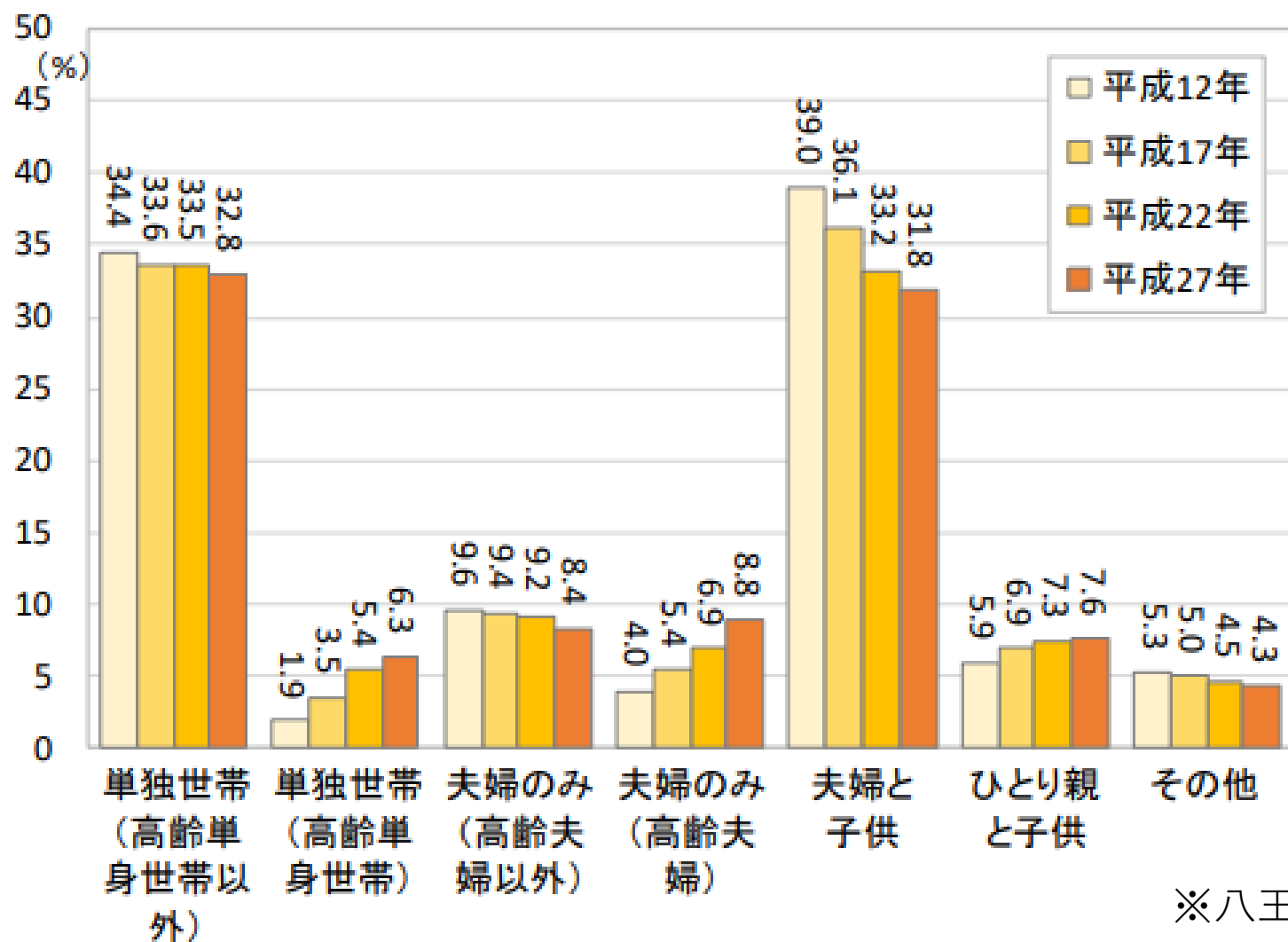


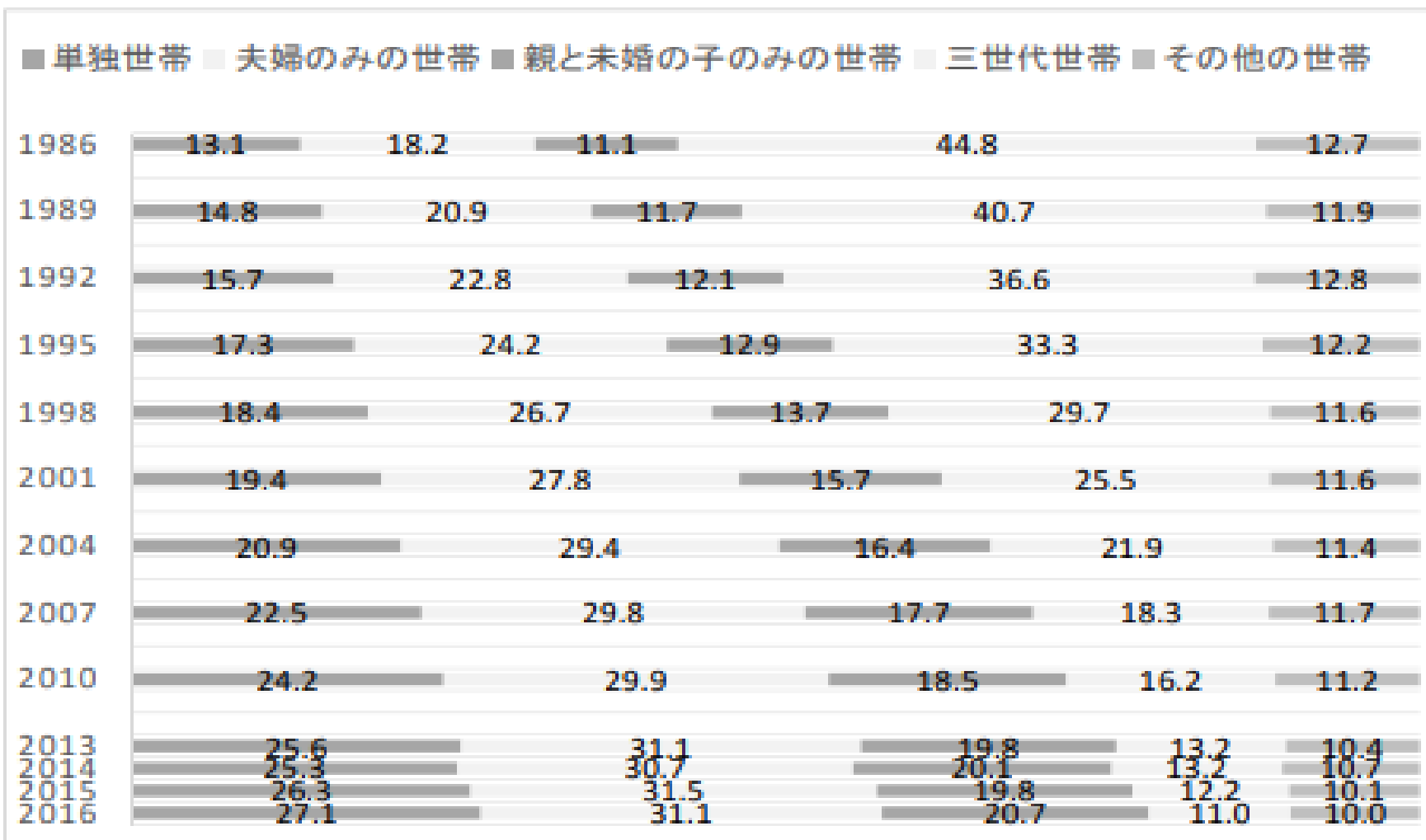
※不詳世帯をあん分補正している

※八王子基礎データ集より抜粋

【出典】国勢調査(平成27年(2015年))

●東部地域



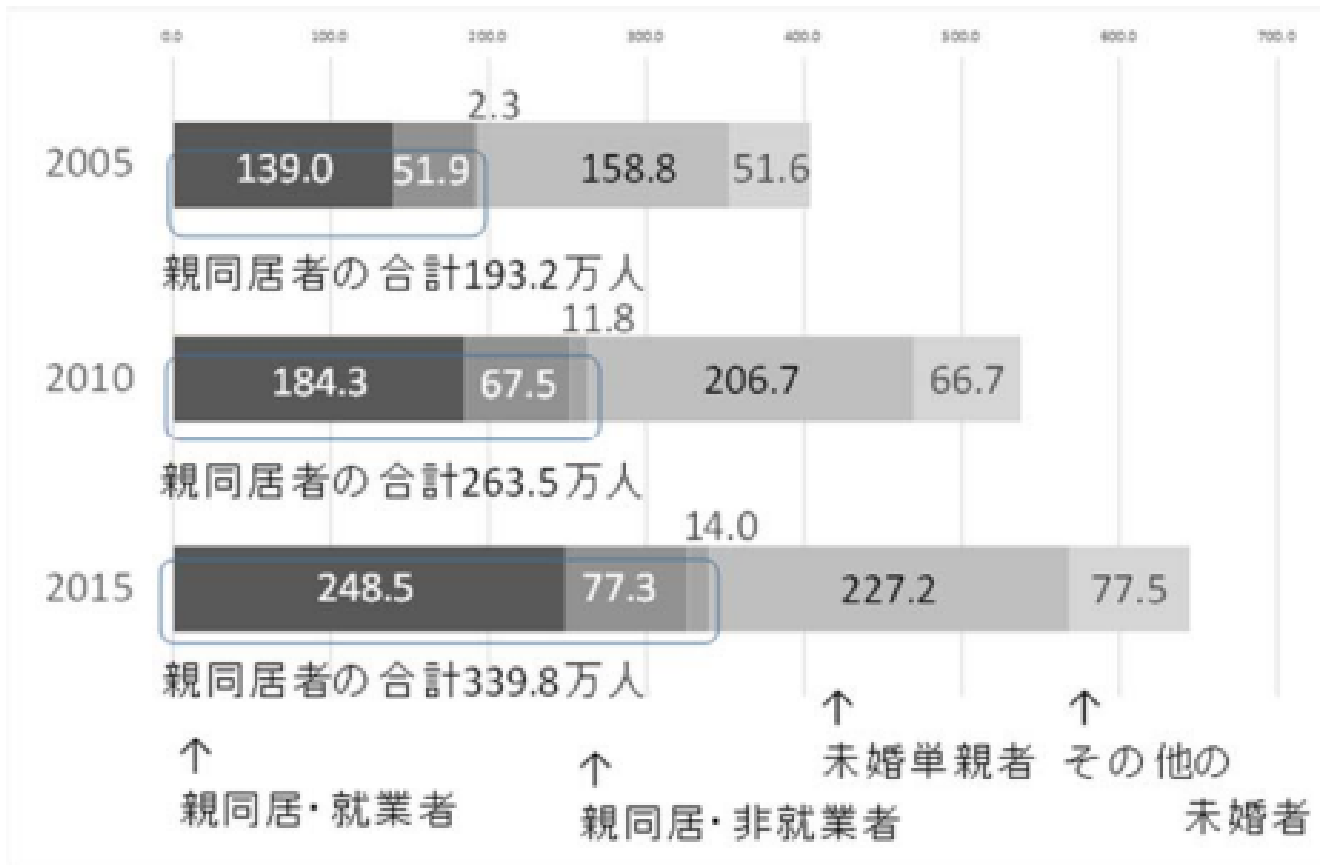


そのまま8050問題というわけではないが…

高齢者世帯のうち、『親と未婚の子のみ』の世帯が2割を占めている。

図 I -1 65 歳以上の者のいる世帯の状況（単位はパーセント。『平成 28 年 国民生活基礎調査の概況』から作成）

KHJ全国ひきこもり家族会連合会
地域包括支援センターにおける「8050」
事例への対応に関する調査報告書
(2018) より抜粋



親と同居する未婚者の数は増加傾向

その中で就業していない子世代の数も増えている

親と子の同居世帯は民生委員の見守りの対象とならず、社会的に孤立するなど、実態把握が難しい

図1-2 40代・50代の未婚者における親同居者・単身者の人口の推移（単位は万人。国

勢調査から作成）

KHJ全国ひきこもり家族会連合会
地域包括支援センターにおける「8050」
事例への対応に関する調査報告書
(2018) より抜粋

地域包括支援センターと8050問題

KHJの行った調査によると、無職の子と同居する高齢者の支援例があるセンターは83.7%だった。

各センターでの対応事例

高齢者あんしん相談センター南大沢

夫：70代 要介護1 軽度認知症あり

妻：80代 要介護1 歩行不安定で杖歩行

長男：キーパーソン 未婚 50代 元ひきこもり 週4日労働に従事

【概要】 他市相談部門からの情報提供で介入。浪費で生活が立ち行かなくなり転居。専門職と清潔に対する価値観の相違が大きい。何とかサービスに繋がっている状態だが、事務手続き等に対する理解がなく、更新時に苦勞した。

【課題】 なかなか改善されない不潔な環境

キーパーソンである長男との関わりの難しさ

今後のリスクへの対応

高齢者あんしん相談センター由木東

母：70代前半（精神障害・知的障害疑い・半身麻痺・要介護2）

息子：30代前半（未婚・障害者年金受給）

【概要】 都営団地にて二人暮らし。本人は金銭管理が出来ず息子の年金を自分の生活に充てている。息子は家の中ではトイレが出来ず外で排泄するため、露出で通報され何度も警察が対応している。現在、関係機関と連携し母子に対応中。

【課題】 息子の状態にあった生活の場の確保

親亡き後の息子の支援

本人が安心して継続的に生活できる環境の確保

高齢者あんしん相談センター堀之内

母：80代（未受診・介護保険料未払い）

長女：50代（同居・未婚・有職・うつ的）

長男：50代（同居・未婚・30年ひきこもり・統合失調症疑い・未受診）

【概要】 都営団地にて3人暮らし。別居の次男が本人の様子がおかしいと包括へ相談。訪問すると、中重度の床ずれあり。1か月半前から状態低下も同居の姉弟はどこにも相談出来ず、適切なケアができないまま放置状態。

【課題】 相談ができない家族で問題が放置される

母がいなくなった後の姉弟の暮らし

未受診の長男の支援

東部3センターの感じる課題

親のあきらめ

子が親の支援拒否

親が子の支援拒否

親自身の支援拒否

子自身の支援拒否

そもそもひきこもりの子とコンタクトが取れない

キーパーソンの決定が難しい⇒緊急連絡先や支援方針の同意や協力が得られない

親亡き後の支援

ことが起きるのを待つしかないもどかしさ

外部からの孤立

経済的困窮

八王子市の東端で他機関へのアクセスが悪い

子の障害特性